

平成24年2月18日
編集局 大津
プリンスホテル
大津市におの浜
4・7・7



フアザーリング全国フォーラム2日目の2月18日、父の子育て支援に関する12の分科会とプログラムが開催され、多種多様な「パパの力」がうきぼりとなった。

女性から見るイクメン、男性が語るイクメンが人気

女性の本音「イクメンってどう？」

イクメンってどんな存在？ 女子会トーク
コーディネーターには(株)東レの渥美氏、そしてパネリストには兵庫県尼崎市長の稲村氏、(株)ワークライフバランス社長の小室氏、AREA副編集長の浜田氏、「ピース맘」編集長の廣瀬氏というパワフルなメンバーでの2時間トークでした！



■イクメンってどう？

稲村) イクメンかどうか、妻は自分と夫を比べているけど、世の男性は他の男性と比べている。だからイメージが一致しないんだよね。旦那がイクメンになればなるほど、女性が罪悪感を感じてしまいがち。女性側も、世間よりもやれていないという罪悪感を捨てなければいけない。

■イクメンにときめいたことってありますか？

浜田) ある年齢から上だと、イクメンの方がいいに決まってるけどどうしても好きになれないというジレンマを抱える人が多い。自分の小室) 若い子はイクメン好きが多い。自分の幸せな人生の為にイクメンが必要なんだな、と刷り込まれている気がする。

■イクメンスクールに通っているって、独身男性がアピールしていたら、どう？

浜田) うーん、ちょっと引くかも・・・
小室) 昔の誤ったロールモデルを参考にする位なら、スクールで今の時代にあったロールモデルから学んだ方がいいのでは？

最後は参加者からの質問タイムになり、4人4様の回答がありました。「女子会」なんて言うといつオトコを槍玉にあげて皆で毒舌大会、みたいなものを想像してしまいますが、さすが皆さん男性に対する理解もとても深い。男性の気持ちも分かってしまうからこそその悩みなども紹介されていて、男性に対する不満というよりもこうした方がいいよね、という提案が多かったです。男女問わず楽しむ女子会でした！

イクメン座談会男の本音 「イクメンに完璧はない」



■失敗談は？

西村) 子供が卵ご飯に醤油をかけてる時失敗して、つい叱っちゃったんですよ。そして、次にまたかける時に「パパやって」とチャレンジしなくなっちゃって。あー、失敗したなと思いましたが、でもちゃんと挽回しましたよ！

■イクメンへの秘訣は、「褒めること」！？

太田) 当時はイクメンという言葉もありませんでした。奥さんに育てられたところが大きいですが、奥さんには感謝しています。褒め上手な奥さんなんです。いや本当に感謝しています。感謝です。

■子供と接する時のコツは？

太田) 子供と話す時は、主語と述語を会話の中ではっきり伝える叱る時も、なぜ叱っているのか、分かりやすいように理由を伝えることです。

■これからイクメンになろうという人へのメッセージを！

セイン) 頑張ることも大事ですが、頑張りすぎないで。イクメンに完璧はない。完璧は無いに近いです。
■安定した育児には夫婦仲が良いのは不可欠ですが、どうやって維持していますか？
安藤) 妻には妻の人生があり、僕には僕の人生がある。妻の人生は僕のものではない。一緒にいることで、更に楽しくなるというのを目指している。だから、いつも応援している。
イクメンは家事を手伝うことが目的ではない、妻の人生を応援するのが目的。家事の手伝いはその手段。

ルールや考え方を共有する 働き方と休み方、それぞれの現場

多面的な活動紹介

わが子から地域の子どもへ 原点は「“パパ”だからやる」

◆児童養護施設の子どもたちの自立を応援しよう！
くタイガーマスク基金の今後く

虐待の問題に、父親が、地域が、どう関わられるか。滋賀県の児童養護施設「湘南学園」施設長は「施設のことを社会がネグレクトしている状況がある」と話す。18歳で施設を退所し自立を迫られる子どもたちが抱えるハードルは高い。施設の子どもたちの自立支援を行うNPO法人ブリッジフオースマイルの取り組みや、児童虐待防止全国ネットワークの啓発事業などの紹介を交え、親の支援が期待できない中、社会が子どもたちをどう支えていくかが話し合われた。参加者には自身が児童養護施設経験か



タイガーマスク基金分科会



どの分科会も熱心にメモをとる様子が見られた。

ら虐待防止のための活動をしている施設で育った人や、子育てにつまづいたという人などから質問が相次ぎ、活発な意見交換が行われた。

* * *

◆イクジブプロジェクトから学ぶ
くパパママだけでなく祖父の力を子育てにく

子どもが触れ合う大人の数が減っている中、子どもの社会性やコミュニケーション能力の低下、道徳心の欠如など諸々の問題が出てきている。祖父母をはじめ、元気な高齢者が子育てに関わることで、心の育ち、人間関係の幅、多様な経験など、子どもたちが得るものは大きい。地域に果たす役割も今後ますます期待される。

◆子育てを楽しむパパになるう！
く日本全国に広がるパパスクールの紹介く

「笑っているパパ」を実践するためのワークショップをしがで展開！「3分で10人と自己紹介しましょう」というミッションでは、名刺交換とは違ったリラックスした笑顔が。分科会が終わった後も、出席者同士が交流する姿が見られました。

* * *

◆「ポジティブ・オフ」でイクメンしよう！

積極的に休暇を取得して外出や旅行を楽しもうというポジティブ・オフ運動。育児を含む有休制度の導入や勤務制度改革に取り組みことで、社員の能力を最大限に引き出し、生産性も向上するなど、個人も企業も双方によい影響が出るのが企業からも報告され、参加者は熱心にメモを取る姿が見られた。



分科会「子育てを楽しむパパになるう！」ではワークショップ形式でパパスクールの体験

子育ては一人だけのものではない 父子家庭、孫、児童養護施設、医療現場の実態

◆パパ育児はシングルパパに聞きやがれ！
父子家庭の現状と課題、今後の支援の
在り方について

第1部では、全国父子家庭支援連絡会の片山氏から「突然、妻が事故で他界したら。突然、妻が家出したら。子育てしながら今の仕事を続けることはできますか？」と父子家庭の現状について報告がなされた。

第2部ではシングルパパ5人による熱烈トークで会場は大盛り上がり。「料理で火を3つ使いながら洗い物もしつつ洗濯も頭にあつて家事育児はマルチタスク、複数のことを同時に考えるスキルが上がるのは仕事にもいい影響が出る」と片山氏。「母親の役割をやる必要はないけれど、父親を2倍やればいい」「父親を2倍やったらうつ病になっちゃう。適当でいい」といった本音バトルから、シングルパパママからの相談に現実的な回答も含め、90分はあつという間に過ぎた。シングルパパが相談相手に不足している現状が実感できる分科会であった。



全父子連の片山代表とシングルパパがトークバトル！

◆はじめてのパパ・ママ・ミニセッション



ベビーマッサージには新米パパ、ママが集まった。

9組のパパママと赤ちゃんが参加して、ベビーマッサージを体験。話しかけながらパパママがやさしくタッチすれば、赤ちゃんもにっこり。

◆これからの子どもと教育、企業や町の発展
子どもと社会が、企業や町を発展させる
子どもの力を伸ばす！

おとなが子どもから学ぶことは多い。子どものチカラを真剣に活かせば、職場に活気とアイデアが生まれ、今までにない「価値」ある社会が見えてくる。学校、家庭、地域の三位一体で、実体験を通して子どもの可能性を開発し、それぞれに還元していくことがこれからの社会には求められる。滋賀県のキャリア教育の実践、キャリア教育に協力することで得られる企業のメリットについてディスカッションをおこなった。

◆イクメンが仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を実践するカギ！

京都大学大学院文学研究科教授の伊藤雄氏から「ワークライフバランス社会を実現する男性の生き方」というテーマでの講話があった。伊藤氏によると、男性の長時間労働は様々な現代の様々な問題を引き起こしているという。男性の過労死、熟年離婚、中高年の自殺などはいずれも一日のほとんどの時間を労働に割り振ってしまった男性の働き方が引き起こしている」と主張。その根拠についてもデータを元に分かりやすい説明があった。

◆医療現場のワークライフバランス

労働時間を決めることができない現場が医療。母子愛育会の安達知子氏が講演した分科会では女性の参加者が集まり、切迫した現場と生活との折り合いをつけ長く働き続けるための話に耳を傾けた。

◆睡眠はよい家族の秘訣

一歳の子どもの大きいびきをかく事例がある。いびきは呼吸や脳と直結し、健康を損なうおそれがある重要なサイン。子どもの健康を管理し、また父親たちの健康を守るための分科会が「パパの睡眠講座」が。睡眠学を学び、眠りの観点から情報を発信する滋賀県医科大学睡眠学講座教授の宮崎総一郎氏から、いびきなどの現象に気づき、健康を守ることが家族を守ることにどうつながると説明された。

家事体験から学ぶ仕事の段取り
成長するまでの数年間の楽しみ方

